

## コロナ禍でのチリモン探し

しらす干し(チリメンジャコ)に含まれているシラス以外の稚魚や幼生をチリメンモンスター(チリモン)と呼び、それを探す環境教育活動をチリモン探しと言います。当場では3年前からサバソニ&アジロック(伊東市内の有志の方々による地域振興イベント)でのチリモン探しに携わり、昨年度は伊東・熱海地区でチリモン探しが4回に増え、今後の展開に期待していました。

しかし、年明け後のコロナで一転しました。コロナ対策として“3つの密を避ける”ことが指摘されますが、屋内で行うチリモン探しは“3密”の典型となる恐れがあります。夏の暑い屋内では窓を閉めての冷房で密閉、好評で人数が多くなると密集、参加者に指導する時に密接と“3密”の可能性が高くなります。そのため、コロナを警戒してサバソニ&アジロックはイベントそのものが中止となりました。

昨年初めて行われた伊東市教育委員会主催の伊東市小学生ふるさと教室は好評で、教育委員会担当者が興味を持ち、主体的にチリモン探しを運営する気運が生まれました。コロナ禍でふるさと教室も中止の検討がされたものの、最終的にコロナ対策を行った上の開催と決まりました。資材は地元伊東地区のシラス漁船から入手したサンプルも含めて伊東市教育委員会が用意し、運営は伊東市在住の環境学習コーディネーター山口氏が中心に夢チャレンジクラブ(ふるさと教室OBOGの中高生)で行い、現場がサポートし、8月22日に宇佐美留田会館で他のSUPや釣り体験とともに開催されました(写真参照)。



今年のサンプル(伊東産)はチリモンが少なかったため、参加者にとっては不満足だったかもしれません。しかし、参加前の体調確認、マスク着用、入れ替え時の換気、顔を近づけない指導に留意し、コロナ感染者が出なかったこと、伊東市

教育委員会が主体的に取り組み、今後のこの地区での自主開催に踏み出した大きな一歩となったことを評価したいと思います。

(長谷川雅俊)